

# SKV・SIV 石巻で合同合宿

SKV(専修神田ボランティア)とSIV(専修生田ボランティア)が8月、宮城県石巻市で合同合宿を行った。震災遺構を見学し現状を学ぶと同時に市内の小中学生と交流した。

## 小学生と楽しく防災活動

両団体の学生48人が参加。学生が企画・運営のミニ運動会「専大まつり」は8月9日、石巻専修大学で開催した。6回目を迎える専大まつりには小中学生35人が参加。毎年参加している子どももおり、学生との再会を喜んだ。



子どもたちと楽しんだ専大まつり



女川中学校中庭に建てられた「女川いのちの石碑」を訪問

SKVとSIVは防災に関する活動をしており、今回の専大まつりでは「防災の大切さを子どもたちに伝える」を目的として、また同日は石巻市教育委員会を訪問。昨年の鳳祭での石巻焼きそばの売り上げなど14万5000円を寄付し、境直彦教育長に手渡した。境教育長から復興状況などの説明を受けたSKV代表の長谷川拓海さん(法3)は「子どもたちのために役に立ててほしい」と話した。2泊3日の合宿初日は石巻市の震災語り部の案内を受けながら、児童と教職員が犠牲となった大

川小学校や、津波の被害状況などを伝える石巻復興まちづくり情報交流館(中央館)などを巡った。最終日は女川町の津波到達点に建てられた「女川いのちの石碑」を訪ねた。SIV代表の稲田知沙さん(文2)は「震災の記憶を風化させないために、継続的に訪問すること

とが大切だと感じた。同時に、いつ起きてもおかしくない災害に備え、自分たちの防災意識を高めたい」と話している。55回定期演奏会(12月25日)へ、17時30分、東京都・府中の森芸術劇場破し、9月の本戦では銀どりむホール)に向け賞に輝いた。現在は、第一練習に励んでいる。

## ネット情報・ワークショップ 高校生がオリジナル紙袋作り



高校生がデザインした「イッテンバッグ」

ネットワーク情報学部は高校生を対象にしたデザインワークショップを8月3日、生田キャンパスで開催した。AO入試で同学部の受験を考えている高校3年生30人が参加。「イッテンバッグをつくらせよう」をテーマに、オリジナルの紙袋

作りを取り組んだ。「イッテン」には「二点もの」と一転させるという意味を込めた。架空の動物園で使う紙袋を想定し、荷物だけでなく、訪れた人にとっての特別な体験も持ち運べるような付加価値を考えた。丸一日かけ、グループ

での話し合いや学内でのフィールドワーク、コンセプトづくりなどデザインについて学んだ高校生。アイデアをひねり出し、自分だけの「イッテンバッグ」を完成させた。最後に作品をプレゼンテーションし、優秀者には指導に当たった上平崇仁教授から賞が贈られた。

大きなしっぽを描いたリュックサックを考案した女子は「参加者同士のディスカッションでまったく違う考え方に触れ、とても刺激的だった」と笑顔。

上平教授は「紙袋にもデザインはある。そういう目で物事を見てもえれば」と講評した。参加者全員に塩濱有紀子さん(4年次)がデザイン・制作した特製のタグが贈られた。

「障がい者支援意識向上セミナー」の一環。音声以外のコミュニケーションツールを学ぶ。

▽日時11月8日・29日※毎週木曜日、全4回。16時35分~18時5分

▽場所生田キャンパス411教室

▽定員15人(先着)

▽申し込みポータルサイトのアンケートから。

締切は10月19日(金)

※参加無料

※学生生活課(生田)

044・911・126

7

## 自己表現力を学ぶ

### ボイストレーニング講座

自己表現力を身につけるワークショップが9月20日、神田キャンパスで開催された。1年次生から4年次生まで17人が受講し、専門家からボイストレーニングの方法や人に伝わりやすい話し方を教わった。

「共感」「意外性」「役立つ情報」の3点との指摘を踏まえ、一人一人が自己紹介を行った。

「バイトでなかなか笑顔が作れない」「プレゼンテーションで興味のない聴衆に聞いてもらうにはどうしたらいいか」など受講生からたくさん質問の手が挙がっていた。

古川千華さん(人間科学4)は「面白いあいさつは大切だと再認識した。社会人になっても役に立たい」と笑顔で話した。自己表現が苦手な加したという池田陽平さん(経営3)は「声の出

方を意識しようと思おう。セミナーや就職活動で活用したい」と話した。



横たわって複式呼吸の練習をする受講生

た。古川千華さん(人間科学4)は「面白いあいさつは大切だと再認識した。社会人になっても役に立たい」と笑顔で話した。自己表現が苦手な加したという池田陽平さん(経営3)は「声の出方を意識しようと思おう。セミナーや就職活動で活用したい」と話した。



## 少年少女レスリング教室 全国大会大活躍の3人 川崎市長に優勝・準優勝を報告

7月に開催された第35回全国少年少女レスリング選手権大会で優勝や準優勝した専修大学少年少女レスリング教室(木村元彦代表)の小学5年生3人が9月18日、川崎市役所を訪れ、福田紀彦市長に報告した。写真。

3人は、女子40kg超級優勝の松山桜さん、36kg級準優勝の小川舞さん、33kg級準優勝の関戸香梨奈さん。同大会は小学生を対象とした国内最大規模のレスリング競技大会。全国から1000人以上が参加する。同教室は5年ほど前から優勝など入賞者を多数出している。

松山さんは「初優勝できうれしい」と喜びを表した。準優勝の小川さん、関戸さんともに「優勝できなかったのは残念。次の大会では頑張りたい」と話した。福田市長は「全国レベルでの優勝、準優勝は素晴らしい活躍だ。体と心を鍛えてさらに高みを目指して」と激励した。

同教室は、本学のレスリング部OBが集い、生田キャンパスを拠点にした地域貢献活動として2009年に始まった。川崎市を中心に5歳から中学生までを対象で、これまで参加者は280人を超えた。現在は70人が在籍している。正式名称は、専修大学スポーツ研究所主催の地域スポーツ講座「子どもにおけるからだ」と「うごき」

セネガルの子どもたちにレスリングウェアやシューズを寄贈した。



点字講習会